

坂出發持続可能で新たな価値を創造する港づくり (坂出ニューポートプラン具現化に向けた取組み)

高松港湾・空港整備事務所 企画調整課 宮地 正士
高松港湾・空港整備事務所 企画調整課長 矢野 直
坂出市建設経済部みなと課 山田 毅

坂出港は、工業港として発展してきたが、周辺環境の変化等により、工業港としての魅力向上に留まらず、新たな価値の創造が求められている。坂出ニューポートプランは“実現可能な夢”のため、今後 10 年間に行うべき方向性を取まとめたもので令和元年 8 月に坂出市より発表された。ここでは、本プラン内容及び具現化への取組み状況を報告する。

キーワード 港湾計画、官民連携

1. はじめに

坂出港は、香川県のほぼ中央に位置し、古くから瀬戸内海における海上交通の要衝として栄え、香川県の工業と坂出市の発展に大きく貢献するなど、四国北東部における流通拠点として重要な役割を果たしてきた。一方、サプライチェーンのグローバル化や国内生産拠点の統廃合、新エネルギーの普及、我が国へのクルーズ船寄港の拡大など坂出港を取り巻く環境が大きく変化している。本稿では、これらの取り巻く環境を踏まえた新しい坂出港の将来像とその具現化への取組みを示す。

2. 坂出港について

(1) 坂出港の変遷

坂出港は、1824 年～1829 年に坂出港付近の塩田築造とともに開設され、現在の西運河及び沖湛甫（おきたんぼ）を中心に主として塩や薪、石炭などの輸送に利用された。その後、塩田の開発に伴い、塩を運び出すための岸壁整備などが進み、昭和初期には



図-1 坂出港の変遷

近代的な商港として発展した。

昭和 40 年には番の州地区で埋立に着手し、昭和 42 年に川崎重工業(株)が操業を開始。続いて三菱化学(株)（現、三菱ケミカル(株)）、四国電力(株)、アジア共石(株)（現、コスモ石油(株)）、吉田工業(株)（現、YKKAP(株)）等が立地操業し、香川県の工業開発の中核として坂出港は飛躍的に発展を遂げた。

(2) 坂出港における物流の現状

現在、坂出港で取り扱われている貨物は、石炭やコークス、石油製品、LNG、LPG等のエネルギー関連貨物の他、麦、完成自動車、鋼材、金属くずなど多岐にわたっている。特に、四国から輸出されるコークス及び輸入される麦の全量を坂出港で取り

扱っている他、四国に移入される完成自動車の約7割も坂出港で取り扱っているなど同港は四国の港湾物流において非常に重要な役割を担っている。

しかしながら、高速道路網の拡充、石油関連事業や穀物関連事業の合理化等の影響により、四国の重要港湾全体の取扱貨物量は、本州四国連絡橋開通前の昭和60年以降右肩下がりであり、特に坂出港の港湾取扱貨物量はフェリー航路の廃止や背後企業の規模縮小・撤退等により減少量が大きい。その中でも、平成25年のコスモ石油(株)の精油機能停止により、原油の輸入がなくなるなど、坂出港の取扱貨物量及び貿易額は大幅に減少している。

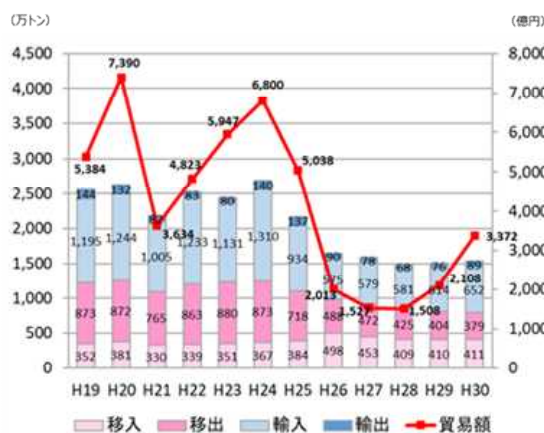


図-2 坂出港の取扱貨物量と貿易額の推移

(3) 坂出港の取り巻く情勢の変化

人口減少に伴うモーダルシフトの進展、資源・エネルギー・食糧等の世界的な獲得競争を受けての船舶の大型化、自然災害等のリスクの増大など坂出港の取り巻く情勢が変化している。

- ・トラックドライバーの人手不足や高齢化の進展
- ・バルク船等の船舶の大型化
- ・切迫する南海トラフ地震、大規模化する台風・高波、港湾施設等のインフラの老朽化

上記の取り巻く情勢が変化している中で、さぬき浜街道の重要物流道路の指定や本州と四国の結節点である坂出北ICのフルインター化が令和6年完成を目標に事業実施されているなど、陸上における物流ネットワークインフラが構築されているところである。

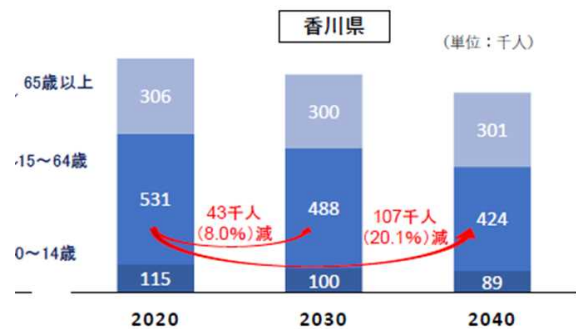


図-3 香川県における生産年齢人口の変化(グラフ)

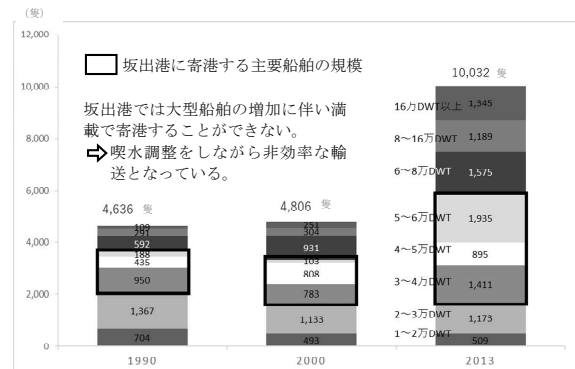


図-4 バルク貨物船の大型化(グラフ)

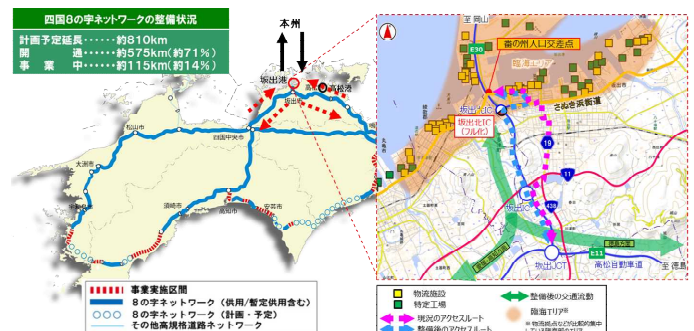


図-5 坂出港と道路ネットワーク

3. 坂出ニューポートプランについて

(1) 概要

「坂出ニューポートプラン」は、坂出港の競争力を向上させ、工業港としての魅力向上を推進するとともに、地域住民の憩いの場、クルーズ船等による観光客の交流の場として快適で利用しやすい港づくりを推進するために、坂出港の振興・発展に向けて、今後10年間に取り組むべき方向性を取りまとめたものである。

なお、取りまとめには、有識者、坂出港関係者、行政機関が参加した「坂出ニューポートプラン検討会議」を平成29年に設置し、4回の検討会議を経て、

「坂出ニューポートプラン」を公表した。検討会議での主な議論と公表されるまでのスケジュールは、図-6 に示すとおりである。

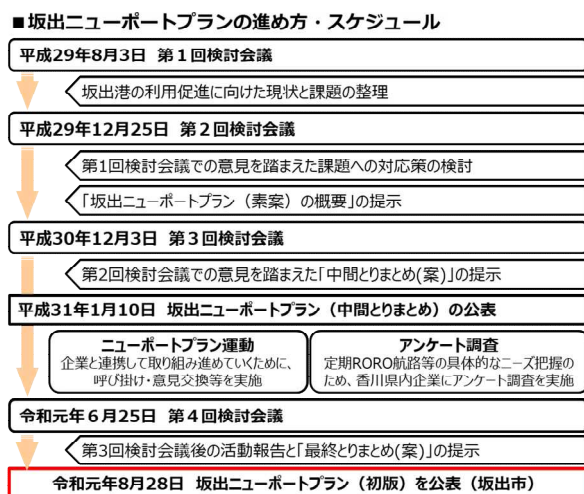


図-6 坂出ニューポートプラン公表までの作成スケジュール

(2) 坂出港の課題

坂出港の取り巻く情勢の変化を踏まえ、現在の坂出港の課題を図-7 のとおりとりまとめた。

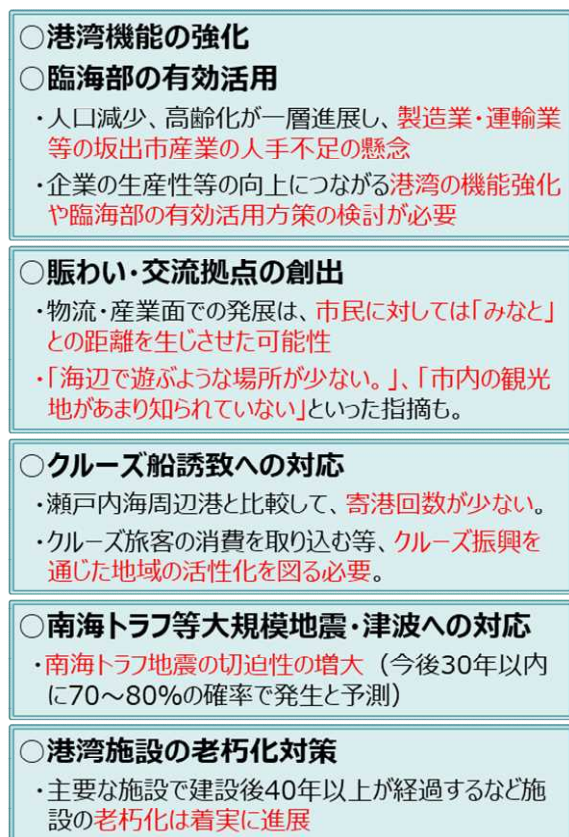


図-7 坂出港の課題

(3) 坂出港の目指すべき将来像

(2)で示した課題を踏まえ、坂出港が目指す姿として、物流・産業面では「背後圏企業の成長を支える競争力・利便性の高い坂出港」及び「環境に配慮したエネルギー拠点としての坂出港」、交流面では「市民が集い、クルーズ船や観光客を呼び込む魅力ある坂出港」、防災面では「大規模地震等に対応した安全・安心な坂出港」の4つを掲げた。

(4) 今後の取組内容

目指すべき将来像を実現するために、今後行うべき取組みの方向性と具現化に向けた今後の取組内容は、図-8 のとおりである。

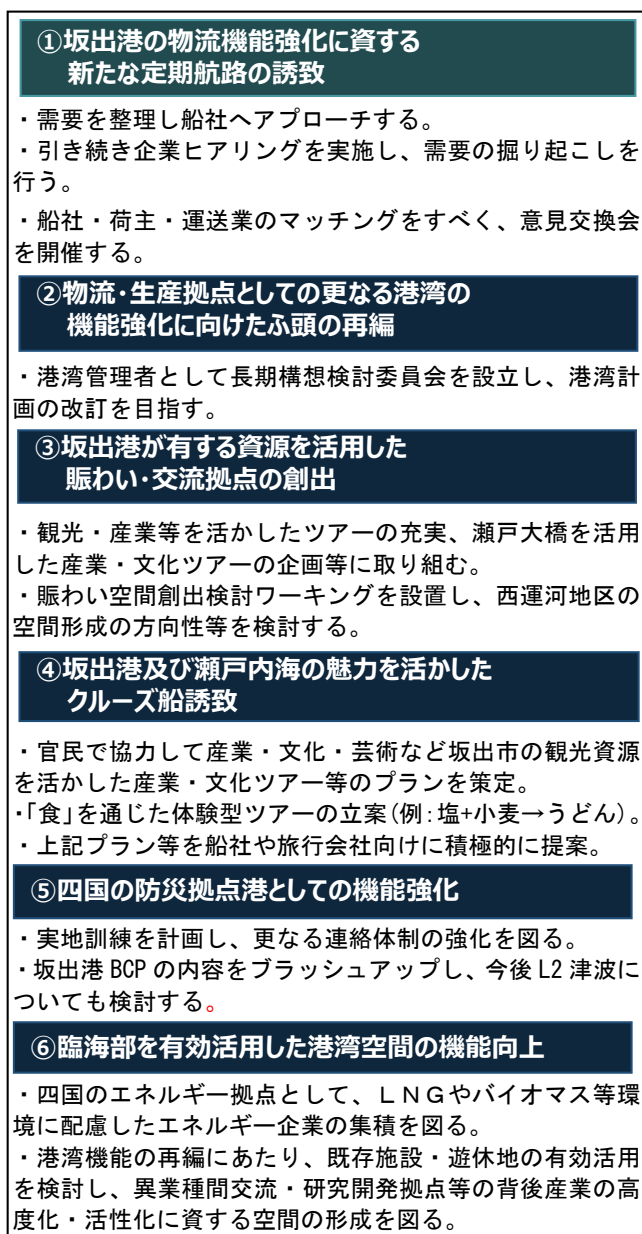


図-8 坂出ニューポートプランの取組の方向性

(5) 坂出ニューポートプラン具現化に向けた動き

坂出ニューポートプラン具現化に向けた活動について報告する。

1) RORO 船の誘致活動

船社・荷主・運送業者のマッチングに向け船社ニーズに則した荷主情報を掘り下げている。

今後、荷主情報と船社ニーズのマッチングを行い、坂出港の寄港に関心を示した船社を対象に官民共同でポートセールスを行う。

RORO 船の試験寄港を実施して、荷主、船社、行政のそれぞれの立場から課題を抽出して、定期航路化に向けて対策を検討する。

2) 坂出港の物流機能再編に向けての検討（長期構想、港湾計画改訂）

効率的な利用が出来るようにふ頭間の再編も視野に入れた計画を検討するため、以下の調査を実施。

- ①港湾施設の利用状況や新たな需要などの掘り起し
- ②船舶の大型化、既存岸壁利用の逼迫等への対応のため新たな港湾機能の創出のための土質調査
- ③坂出港における物流拠点の形成のための基盤整備検討調査

3) 賑わい空間の創出及びクルーズ船の誘致

西運河地区の賑わい創出について、西運河地区の賑わい空間創出検討を行ううえでの基礎資料を作成している。他にも緩衝緑地帯を活用して、移動販売ができる賑わい空間を創出する準備を進めている。

また、クルーズ旅客を地元の賑わいに繋げるために坂出商工会議所と坂出市が作成した坂出市内の産業・文化ツアープランがクルーズ船社に採用された。本年 1 月のクルーズ旅客が坂出市内で観光や食事をする姿が見られた。

4. まとめ

坂出港は、四国北東部における流通拠点として重要な役割を果たしており、様々な強みを持っている。一方で、坂出港を取り巻く環境は大きく変化しており、坂出ニューポートプランの作成に至った。

坂出港は、塩田開発から、商港、工業港と時代と共に新しく生まれ変わっている。今回、坂出港が目指す将来像には、工業港としての物流・産業面に留まらず、交流面や防災面なども盛込まれている。

新たな坂出港の方向性に向けて官民が協力して活動しており、積極的な地元企業等と坂出ニューポートプランを他の企業に紹介、産業・文化ツアーの作成など協力して取り組んでいる。

謝辞：当検討会の開催にあたり、関係者の皆様にはご助言・ご協力頂きましたこと当事務局として感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 坂出市ホームページ：「坂出ニューポートプラン検討会議」、〈<https://www.city.sakaide.lg.jp/soshiki/minato/sakaidenewportplankentoukai.html>〉
- 2) 国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口」「日本の地域別将来推計人口」
- 3) CLARKSON「The Bulk Carrier Register2014」